



65歳以上の高齢者の5人に1人。
この数字は、今から約10年後の2025年に認知症になるといわれている高齢者の割合です。高齢化が急速に進み、認知症と診断される人の数が増え、増えていくことから、「認知症の人をまちのチカラで支えていく」ため、まちづくり協議会においてもさまざまな取り組みを行っています。

「子どものうちから認知症について知ってもらいたい」との想いから、小学校での出前授業を行っています。また、認知症に対する正しい知識を身につけ、認知症の人やその家族を支える役割を担う「認知症サポーター」を増やすべく、市の保健師と連携しながら認知症サポーター養成講座も開催しています。

吉浜まちづくり協議会では毎年、認知症寸劇「ちほちほのボケー座」を公演しています。会員みずからが認知症の高齢者やその家族、医者役などを演じ、認知症の基本知識や症状、認知症の人にどう接したらよいかなど、いろいろな視点からユーモアも交えながら普



地域ぐるみで認知症の人を支える

「まちづくり協議会」について知る。

活動紹介⑨「認知症のサポート」

まちづくり協議会では、認知症に対して理解を深めるためのさまざまな取り組みを行っています。
実際に参加したり、知っている活動はありますか。

問合せ先 総合政策グループ（内線365・339）

